2002 10/23 ゴ博

SPIRIT

MA日本キックボクシング連盟
9月28日　後楽園ホール

◎S・ライト級タイトルマッチ／井上哲(山木)【判定3－0】山崎道明(東金)　4階級制覇に挑戦した鉄人・山崎(右)だったが王者・井上の岩のような安定感を崩せない。「勝たせてくれー！」という絶叫も空しく判定負け。試合後に「思うように動けないから」と現役引退を表明した。

36歳の大ベテラン、山崎が遂に引退…

◎ヘビー級タイトルマッチ／内田ノボル(ビクトリー)【KO・2R1分40秒】中西崇介(山木)　久々に登場した王者・内田(右)は2R、打ち合いから立て続けに3ダウンを奪いKO初防衛。リング上から「またK-1に行くよ！」

◎ライト級王座決定戦／木村光(土浦)【判定2－0】水町浩(土道館)　木村(右)が待望のライト級王座戴冠を果たした。とはいえ、水町のカウンターに苦戦する場面も。「今日は50点。いずれは増田選手とやりたい」。

◎ミドル級・マグナム酒井(土道館)【判定3－0】中村高明(藤原)　MAと全日本の対抗戦は、両者のスタイルが全く噛み合わず。首相撲を狙う中村(左)に細かくワンツー・ロー、ハイキックを当てた酒井が僅差の勝利。

◎59kg契約／ファイティング前沢(土浦)【判定3－0】カズ工藤(土道館新宿)　前沢(右)が久々の勝利。軽やかなフットワーク、切れ味が戻り、天才児復活を印象付けた。今後は「まず、ベルトを取り戻します」。

■その他5回戦の結果
▼S・ライト級
ランボー豊栄(東金)【KO・2R1分42秒】飯塚英史(山木)
▼ライト級
安倍乃泰彦(新潟山木)【判定2-0】吉岡篤史(武勇会)
▼68kg契約
荻野兼嗣(ビクトリー)【判定3-0】岩橋知篤(土道館)

〝伝家の宝刀〟が炸裂！
増田、ローで山田を完全KO

チャンスとピンチがラウンドの中で劇的に変化し続けたシーソーゲーム。敗れた山田も株を上げた。MAとの王者対決に2連勝の増田は「王者キラー？」の声に「そうですね」。

▼MA・J-NET交流戦／59kg契約

J-NETWORKフェザー級王者
○増田博正
(ソーチタラダ／170cm／59.0kg／29歳)
16勝(9KO)4敗2分

4R KO 29秒

MA日本フェザー級王者
●山田健博
(東金／175cm／59.0kg／26歳)
11勝(8KO)7敗2分

■参考記録

	(ジャッジ) 松田		(ジャッジ) 岡林		(ジャッジ) 小林	
	増田	山田	増田	山田	増田	山田
1R	10	9	10	9	10	9
2R	9	10	9	10	9	10
3R	10	6	10	7	10	7

増田はMAのリングに上がると、ホームリングとはまた違った不思議な輝きを放つ。ファイティング前沢戦しかり、大月晴明戦しかりで勝つにせよ負けるにせよ、強烈な印象を残さずにはいられない。

今回もまた、MAフェザー級王者・山田健博との一戦でメインを食うような、壮絶な打撃戦で観客を熱狂させる、大激闘を制してみせた。

序盤からローとミドルを効かせてあっさりと終わらせると思いきや、2Rに山田のアッパーをもらうと、決して顎が強いとは言えない増田はいきなりグロッキー状態で形勢逆転。「効きました。ヒジを痛めて思うように首相撲の練習が出来なくて、首相撲の距離で迷いが出たところにアッパーの連打もらっちゃいました」

山田のパンチで幾度となくKOの危機に晒された増田を救ったのは「一番の武器」ローだった。

「来るのがわかっていたのに、やられた」と言うローは、抜群の破壊力で山田の下半身の自由を奪い、熱戦に幕を下した。3度ダウンから立ち上がった山田の意地とその攻撃力も天晴れだったが、それだけに尚更、増田の底力が改めて浮き彫りにされた試合だった。

（小宮山）

2002 ADVANCE I

MA日本キックボクシング連盟
9月29日　千葉・袖ヶ浦市臨海スポーツセンター

◎ミドル級／山上鍵吾(花澤)【TKO・3R2分16秒】チャンデット・ソーバンタレー(タイ)　時折パンチ技術も見せた山上(右)。最後は首相撲からの縦ヒジでカットした。

タイ帰りの山上がチャンデットを返り討ち

4月の後藤戦で敗戦後、山上は恒例のタイ修行を敢行。試合も2試合(1勝1敗)行なっている。今回の対戦相手であるチャンデットとは昨年9月に対戦、ヒジで切り裂きTKO勝利している。敗戦からの復帰戦、一度勝っている相手との再戦、地元興行でのメインと重圧のかかる材料は揃っていたのだが、マイペースな山上にはあまり関係なかったようだ。

試合は前回のリプレイのような展開だった。ミドル、首相撲の攻防を経て山上の縦ヒジがチャンデットの古傷をざっくりとカット。あっさりと試合を終わらせた。

菅原コーチによると、直前にパンチの練習も取り入れたという。実際今回の試合でパンチを打ち合う場面は見られたが、全体としてスタイルそのものはそれほど変わっていない。チャンデットは「山上は前回に比べて、全体的に上手くなっている」と印象を語っている。

マイペースなのが強みの山上ではあるが、宮川理事長も「彼はスター候補として期待している一人」と語っているだけに、ムエタイスタイルからの急激な変更は無理にしても、もっともっと貪欲にレベルアップを目指してほしい。

（小宮山）

◎69kg契約／スネーク加藤(PHOENIX)【TKO・1R2分34秒】井手本高司(八王)　「最近ヒジが調子いい」という加藤(右)、今回もその得意のヒジで圧勝劇を見せ付けた。首相撲からヒジを連打すると井手本ダウン。同時にカットしたためレフェリーが試合を止めた。

◎「最近ヒジなしルールが流行ってますけど、ヒジが一番強くて、倒すヒジがあることを見せることが出来ました。次はデカいところを狙ってるので期待してて下さい」（加藤）

◎「ヒジはまあ、ラッキーでした（笑）。パンチの練習は特に意識してません。試合はあまり動けなかったです。地元で勝てたのは嬉しいですね。前回の試合とか、K-1の事はあまり考えないようにしてました」（山上）